

高学年『バスケットボール』 <学習計画と指導のポイント>

単元目標（運動の側面）

すばやくパスをつないでみんなで攻めたり、ゴールをみんなで守ったりするゲームができる。

時	めあて	指導のポイント	めど
1 2	はじめのゲームを通して、チームや自分の課題を見つけよう。 [ボールに固まる段階]	・ボールを追う、ボールに固まる、ドリブル中心に攻める、といった混沌とした様相に十分浸らせる。 ボールから離れたり、空いた場所へ動いたりし、コートを広く使って攻めることの有効性に気付かせる。	5 年 生
3 4	コートを広く使いながらボールを運んで攻めるゲームをしよう。 [縦に広がる段階]	・ドリブルによるワンマンの攻めや、離れている味方(ゴール方向)にロングパスを送ってシュートにつなげるプレーが多く現れるようになる。 ロングパスがコート中央でカットされる場面が多くなることから、確実につなぐ攻めの必要性に気付かせる。	
5 6	サイドに広がった味方にパスをつないで攻めるゲームをしよう。 [縦・横に広がる段階]	・空いた場所(サイド)への動きにより、横パスも多くなり、パスがつながるようになる。 パスはつながるが、なかなかゴールへ運べないので、意図的につないで運ぶことの必要性に気付かせる。	
7 8	コートを広く使って空いた場所にすばやく動き、パスをつないで攻めるゲームをしよう。 [分担して攻める段階]	・役割分担(リバウンド、つなぎ、シュート)を明確にすることで、リバウンド後の第1パスがつながり、攻めの展開がはやくなってくる。 シュートが入らなかったり、相手のもどりによって攻めづらくなったりすることから、攻め手を増やすことの必要性に気付かせる。	
9 10 11	攻め手を増やし、すばやくパスをつないで攻めるゲームができる。 [攻め手を増やして攻める段階]	・ボールラインを意識させることで、パスをしたらすぐに空いたスペースを見つけて動き、攻めに加わっていくことができるようになる。 相手の攻め(パスをつないですばやく攻める)に応じて、ゴール下へすばやく戻ったりマークする相手を決めたりして守ることの必要性に気付かせる。	
12 13 14	すばやくパスをつないでみんなで攻めたり、ゴールをみんなで守ったりするゲームができる。(リーグ戦) [みんなで攻めみんなで守る段階]	・縦パスを中心とした攻めに加えて、フロントコートでパスをまわし、チャンスを見つけてシュートをする攻めへと発展していく。 ・相手チームの攻めに応じてゴール下へすばやくもどったり、相手を決めて守ったりすることにより、攻防の切り替えのはやいゲームができるようになる。	6 年 生

ここでは、高学年を通しての学習計画と指導のポイントをまとめて示しました。実際の指導においては、教師がゲームの様相(人の動き)を見極め、実態に応じて課題を見出していくことが大切です。また、よりうまいゲームをめざしていく過程においては、一人一人が基底技能(パス、ドリブル、シュート、ピボットなど)を段階的に身に付けていくことができる指導も重要となります。